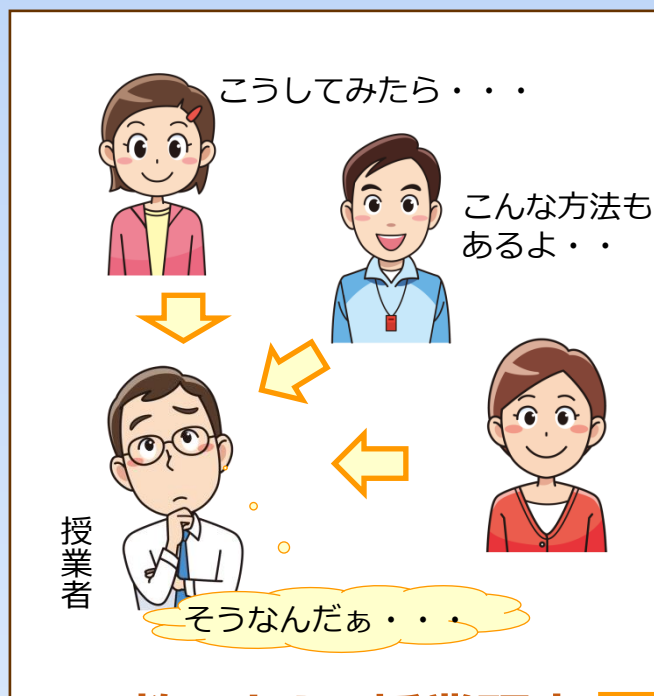


富附特支型研修モデル「学びあいの場」

“自分らしい授業づくりを支える学びあい”

“自分らしい授業づくりを支える学びあい”は、教えあうのではなく聴きあうことを通じて、様々な視点を踏まえて自分自身で気づき、発見するといった、豊かで主体的な学びを目指します。

同僚が子供と同じ目線に立ち、学習に参加する姿勢で授業を参観しながら、授業者の働きかけや子供との関わりを俯瞰します。そして、授業で起きた事実を基に、その時の子供の実態の捉えについて授業者に聴いたり、自分と授業者の解釈に違いがあれば、その要因を明らかにするために聴きあったりすることを通じて、授業者の気づきを促し、全ての子供が主体的に学びに参加できる授業にするための糧とします。



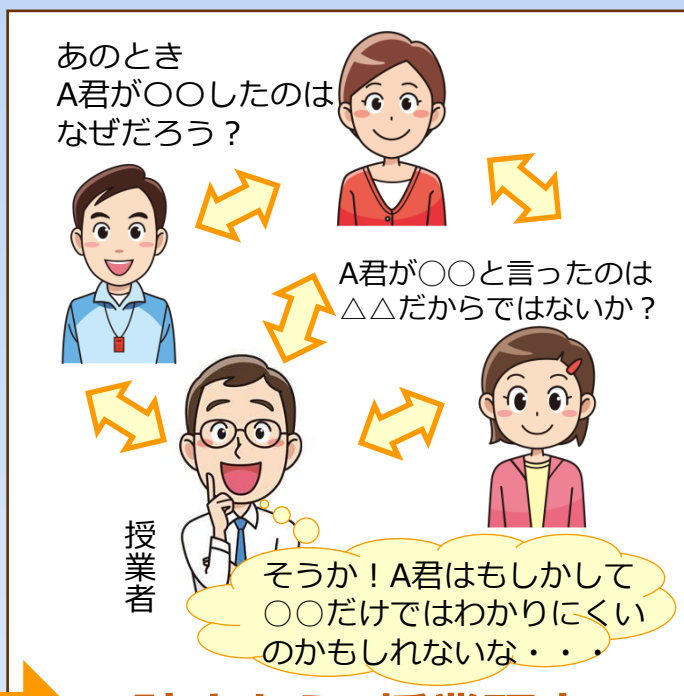
“教えあう”授業研究

転換

“聴きあう”授業研究

参観者の捉えや気づきを基にアドバイス
「支援方法」に焦点化した問題解決型

授業者の思いを大切に気づきを促す
「関わりを観る力」を高める問題発見型



「学びあいの場」のプロセス

授業者



今日のねらいは
〇〇です。
子どもが深く考える
場面を～に設定して
みました。

A君は、よく考えて行動
していた様子が伺えた
のですが、他の子ども
達には難しかったかもし
れない。



④振り返り
(ビデオを観て振り返り)



B君はこんなふう
にしていたのか。

事実を基に解釈を
重ね合わせる

そうですね。
ぼくは…。

B君が止まるたびにどうしたらよ
いか悩んでいましたが、少し見え
てきました。
A君とB君のせつかく
の関わりを広げる
ような働きかけを
考えてみます。



①事前の解説
(ブリーフィング)

②公開授業

③振り返り
(授業リフレクション)

④同僚の学びあい
(小グループで
ラベル・コミュニケーション)

⑤授業者への聴きあい
(全グループで
アクティブ・リスニング)

⑥振り返り
(協同学習リフレクション)

授業改善

「主体的・対話的で深い学び」
に向かって

同僚



おや、B君は～まで活動した後、
止まってしまった。

B君は、止まった後に
A君の方をちらっと
見たよ。



B君が止まったのは、
分からなくなったからかな。

B君は自信がなくて、
これでよいか確かめ
たくてA君を見たので
は。

その前後の様子は
どうだったかな。

経験値に関係なく
対等な立場で

私達のグループでは、B君が止まったのは
～とか、～とかの意見が出ました。
先生はどのように解釈していますか。

B君の実態が少し分かった。
子どもが「止まったとき」って
いろいろな場合があるから、
自分のクラスの子供たちも
注意深く見てみよう。



同僚との対話を通じて…

◇教育実践の中での自分
自身の捉え方の傾向に
気づくこと

自己省察

◇子どもの姿の事実を基に
子どもの内面を推察しようと
する姿勢が身につく

教育的資質の向上

◇すべての子どもの実態を
皆で共有すること
◇同僚のために支えること

同僚性の構築